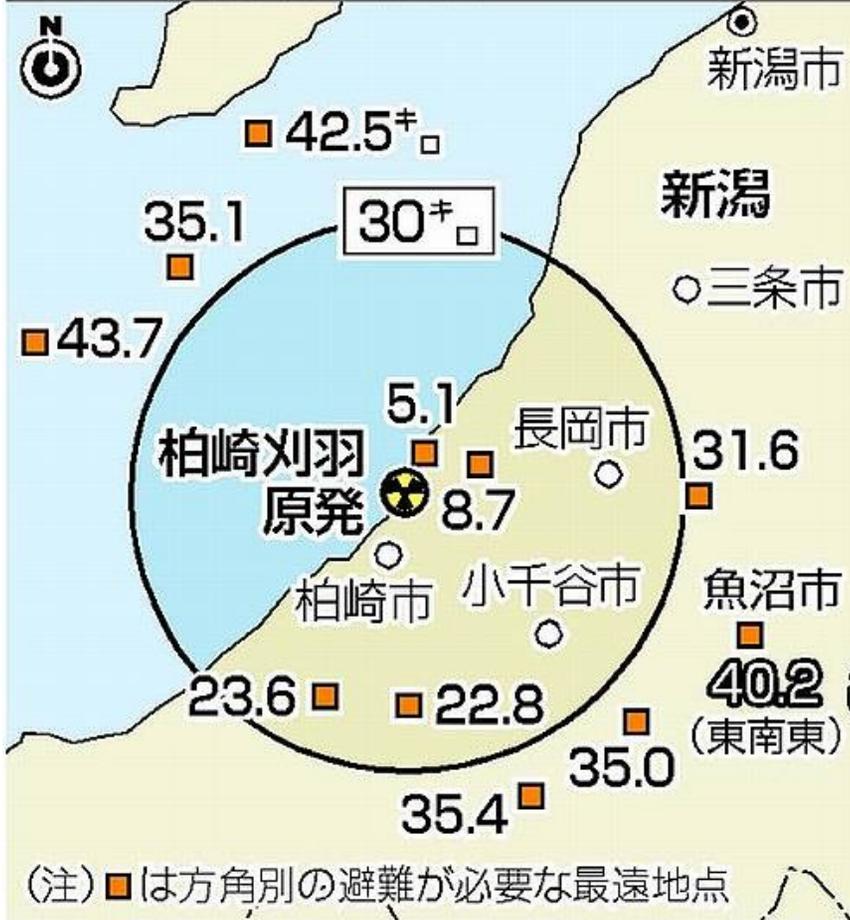


# 放射性物質の拡散予測でも上越市東北部は避難域 「柏崎刈羽原発は廃炉にすべき」の声、一段と強まる

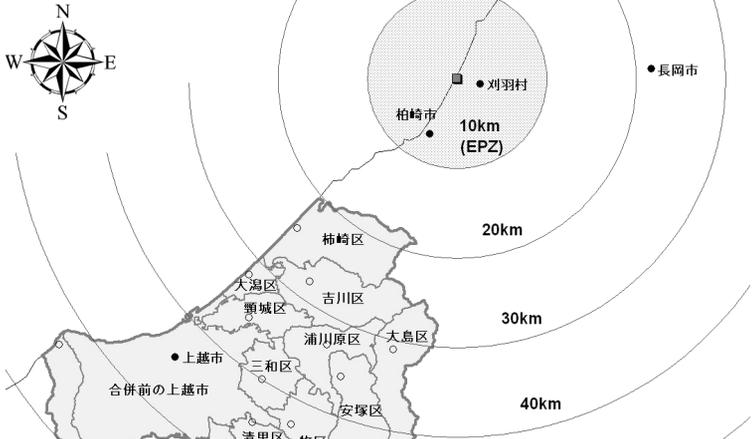
原子力規制委員会は24日、原発で放射性物質を放出する事故があった場合の拡散シミュレーション（模擬実験）結果を初めて公表しました。シミュレーションは日本にある原発のうち、16原発と福島第1原発に対して実施したもので、柏崎刈羽原発も含まれています。シミュレーションは、福島第1原発1〜3号機の推定総放出量と同じ量の放射性物質が放出された場合と、同じ推定総放出量に各原発の原子炉の総出力に応じて増減した場合の2通りで実施しています。

原子力規制委員会は24日、原発で放射性物質を放出する事故があった場合の拡散シミュレーション（模擬実験）結果を初めて公表しました。シミュレーションは日本にある原発のうち、16原発と福島第1原発に対して実施したもので、柏崎刈羽原発も含まれています。シミュレーションは、福島第1原発1〜3号機の推定総放出量と同じ量の放射性物質が放出された場合と、同じ推定総放出量に各原発の原子炉の総出力に応じて増減した場合の2通りで実施しています。

## 柏崎刈羽原発の拡散シミュレーション



(注) □は方角別の避難が必要な最遠地点



上の図は「しんぶん赤旗」25日付に掲載されたもの。下は上越市地域防災計画に添付されている資料図面。

先の県知事選で日本共産党の樋渡士自夫（ひわたし・しじお）候補が訴えたように、柏崎



【ゴマナ】キク科の多年草。漢字で「胡麻菜」と書きます。山すそなどで白い花をたくさんつけています。背丈は1.5メートルほどあります。花はそろりと終わりを迎えます。

刈羽原発をはじめ、すべての原発をなくし、再生エネルギーへの転換を図っていくことが重要です。今回のシミュレーション結果を知った市民からは、「柏崎刈羽原発は廃炉にすべき」との声が一段と強くなってきました。（左上の図と下の図はほぼ同じ縮尺にてあります）

### 樋渡候補が5万9000票を獲得 日本共産党県委の川俣書記長が談話

先週日曜日の県知事選では現職の泉田裕彦氏が3選を果たしました。告示直前に立候補を表明した日本共産党の樋渡士自夫氏は2年前の参院選比例で日本共産党が獲得した票を上回ったものの、5万9876票にとどまりました。

23日、「選挙戦では、『原発ゼロ』『柏崎刈羽原発を廃炉に』という訴えに大きな手ごたえがありました。泉田氏は当初、原発は争点でないとして、選挙公報にはこの問題は一言もありませんでしたが、政見放送では野田内閣の大飯原発再稼働を批判し、『県民の安全・生命・財産を守ることを第一に考え、見切り発車的な運転再開議論は行いません』とのべざるをえませんでした。また、選挙戦では、TPPや消費税、介護や医療などの問題でも切実な声が寄せられました。こうした声に基づいて県民運動をさらに発展させていきたいと思っています。ご支援いただいたみなさんに心から御礼申し上げます」（概要）との談話を発表しました。

今年の正月の三日だったと思います。宣伝カーで浦川原区の坪野というところまで上って、びっくりしました。前方に、私の本の表紙写真を撮ってくださいとカメラマン、平田一幸さんの姿が見えたからです。

思わぬところで出会い驚いたのですが、平田さんはこの日、雪の中の柿の木を撮影するために、わざわざ坪野に出かけていたのです。車を降りて挨拶すると、そこにはカメラマンの方がもう一人いました。二人とも目的は同じでした。

「いいのが撮れました？」と声をかけると、平田さんはニコニコして、「撮れましたよ。朝からずっと待っていたんです」という言葉を返してきました。この日は最初曇っていてパツとしない天気でしたが、その後、見事な青空が広がりました。平田さんたちは、冬の青空のなかで気に入った写真が撮れたのでしよう。

「いい写真が撮れた」という言葉を聞いたとき、私がイメージしたのは、青空と白雪をバックにした柿の木でした。でも、平田さんたちが待ち続けていたのは、太陽が照りはじめたときの一瞬のシャッターチャンスだったのです。

そのことが分かったのは、九月に高田図書館市民ギャラリーで開催された「写友かたくり」写真展で、出展した作品を撮った時のエピソードを平田さんから聞いたときでした。

平田さんがこの写真展に出した作品のひとつに雪をかぶった柿の木の写真がありました。見た瞬間、私は一月に坪野で見た柿の木を思い出していました。「この写真、あのときのものですか」と尋ねると、「あそこではなくて、熊沢の上沼道の近くで撮ったものです」と平田さんは答えました。そして、そのあと、この写真の風景に出合ったときのことを興奮して語ってくださいました。

この日も最初は曇り空だったそう、雲が切れ、太陽が顔を出すのを平田さんはずっと待ち続けたといいます。どれくらい待ち続けたのかは聞きませんでした。おそろく、一時間や二時間は待ったでしょう。柿の木の上空の雲がなくなり、青空が見え、太陽の光が輝いた瞬間、平田さんは胸をドキドキさせながら雪をかき分け、柿の木の近くへと急いだのでした。もちろん、カメラを持って……。

柿の木の写真では、ふんわりとした雪がオレンジ色の柿に載って輝いています。背景は青空。平田さんの説明によると、雪がキラキラと輝き、柿の実の上に載っている時間はわずかで、すぐに落ちてしまうとのことでした。バックに青空があり、雪が載っていたから柿の実のオレンジ色も一段と美しく見えました。平田さんは、この「最高の一瞬」を待っていたのです。

写真展に出した平田さんの他の作品もやはり、「最高の一瞬」を撮ったものでした。朝日が昇り始める瞬間の田んぼの写真、水面に砂金が散りばめられたような輝きが映し出されています。牧区大月の早春の棚田の写真もそう、水面にやわらかく温かな光が広がっています。手前には残雪があり、フキノトウがいくつも出ています。闇から明るく空間に代わる一瞬、そこに雪もフキノトウもある。この写真は平田さんが二〇年も通い続けて、ようやく撮ることができたということでした。

毎日、バタバタと過ごしていると見逃してしまう自然の美しい風景。「写友かたくり」写真展で平田さんの作品を観てうれしくなりました。そしてなんとなく心があたたまりました。わたしたちのふるさとにこんなにも美しい瞬間があるとは……。

## 津波、原発事故対策で 早急に方針確立を

上越市と妙高市で構成する上越地域消防事務組合議会がこのほど開催されました。主な議題は昨年度一般会計歳入歳出決算の認定、今年度の一般会計補正予算、火災予防条例の

一部改正です。

このうち、昨年度一般会計歳入歳出決算に関しては昨年3月11日の大震災をふまえた対応について質問が集中しました。いうまでもなく3.11大震災は消防行政関係者にも大きな衝撃を与えました。津波災害、原発事故への対応をどうするかを中心に議論し、早急に方針を確立することが求められています。

そうした中、資機材の整備が一定程度行われたものの、本格的な対応はまだこれからという感じがしました。とくに原子力災害対応は、遅れていると思いました。

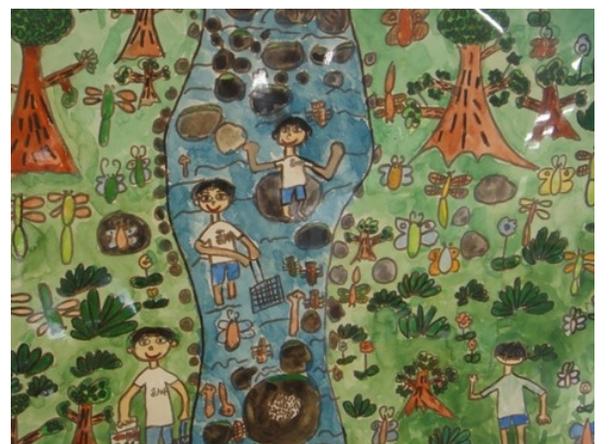
今年度の一般会計補正予算に関しては、空間放射線測定器の導入と測定について質問しました。測定は6月から始まりましたが、1日に1回のみという実態です。東京電力福島第1原発事故による放射線測定だけでなく、今後、身近にある柏崎刈羽原発で重大事故が起きた場合のことを想定すれば、これではきわめて

十分です。私は1日1回になった経過説明を求めましたが、残念ながらはっきりした答えが返ってきませんでした。早急な見直しを求めたいと思います。

## 素敵な児童画廊

市内各地で小中学校の文化祭が行われています。21日には吉川小学校へ出かけてきました。教室脇の広い廊下に児童が描いた素敵な絵がいくつも並んでいました。

下の絵はそのひとつ、川探検の楽しさが見事に描かれています。子どもたちの表情がいいですね。野の花もトンボもチョウもいい。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月17日(水)	10月24日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.053	0.050
頸北消防署	0.046	0.043
頸南消防署	0.047	0.050
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.040	0.050

# 春よ来い 第二十四回 最高の一瞬

今年の正月の三日だったと思います。宣伝カーで浦川原区の坪野というところまで上って、びっくりしました。前方に、私の本の表紙写真を撮ってくださいましたカメラマン、平田一幸さんの姿が見えたからです。

思わぬところで出会い驚いたのですが、平田さんはこの日、雪の中の柿の木を撮影するために、わざわざ坪野に出かけていたのです。車を降りて挨拶すると、そこにはカメラマンの方がもう一人いました。二人とも目的は同じでした。

「いいのが撮れました？」と声をかけると、平田さんはニコニコして、「撮れましたよ。朝からずっと待っていたんです」という言葉を返してきました。この日は最初曇っていてパツとしない天気でしたが、その後、見事な青空が広がりました。平田さんたちは、冬の青空のなかで気に入った写真が撮れたのでしよう。

「いい写真が撮れた」という言葉を聞いたとき、私がイメージしたのは、青空と白雪をバックにした柿の木でした。でも、平田さんたちが待ち続けていたのは、太陽が照りはじめたときの一瞬のシャッターチャンスだったのです。

そのことが分かったのは、九月に高田図書館市民ギャラリーで開催された「写友かたくり」写真展で、出展した作品を撮った時のエピソードを平田さんから聞いたときでした。

平田さんがこの写真展に出した作品のひとつに雪をかぶった柿の木の写真がありました。見た瞬間、私は一月に坪野で見た柿の木を思い出していました。「この写真、あのときのものですか」と尋ねると、「あそこではなくて、熊沢の上沼道の近くで撮ったものです」と平田さんは答えました。そして、そのあと、この写真の風景に出合ったときのことを興奮して語ってくださいました。

この日も最初は曇り空だったそう、雲が切れ、太陽が顔を出すのを平田さんはずっと待ち続けたといいます。どれくらい待ち続けたのかは聞きませんでした。おそろく、一時間や二時間は待ったでしょう。柿の木の上空の雲がなくなり、青空が見え、太陽の光が輝いた瞬間、平田さんは胸をドキドキさせながら雪をかき分け、柿の木の近くへと急いだのでした。もちろん、カメラを持って……。

柿の木の写真では、ふんわりとした雪がオレンジ色の柿に載って輝いています。背景は青空。平田さんの説明によると、雪がキラキラと輝き、柿の実の上に載っている時間はわずかで、すぐに落ちてしまうとのことでした。バックに青空があり、雪が載っていたから柿の実のオレンジ色も一段と美しく見えました。平田さんは、この「最高の一瞬」を待っていたのです。

写真展に出した平田さんの他の作品もやはり、「最高の一瞬」を撮ったものでした。朝日が昇り始める瞬間の田んぼの写真、水面に砂金が散りばめられたような輝きが映し出されています。牧区大月の早春の棚田の写真もそう、水面にやわらかく温かな光が広がっています。手前には残雪があり、フキノトウがいくつも出ています。闇から明るい空間に代わる一瞬、そこに雪もフキノトウもある。この写真は平田さんが二〇年も通い続けて、ようやく撮ることができたということでした。

毎日、バタバタと過ごしていると見逃してしまう自然の美しい風景。「写友かたくり」写真展で平田さんの作品を観てうれしくなりました。そしてなんとなく心があたたまりました。わたしたちの作品をふるさとにこんなにも美しい瞬間があるとは……。



## 吉小文化祭

合唱と演奏の発表、絵画の展示、いずれもすばらしかった。21日の吉川小学校の文化祭のことです。

音楽発表会ではクラスがひとつになり、全校がひとつになります。最初に登場したのは1年生、みんな外遊びが大好きな子どもばかりです。

♪歩こう、歩こう、私は元気…「さんぽ」では大きく手を振り、足を上げて歌いました。「やまびこ」を歌うときには、両手を口のそばに寄せて山に向かって声を送る仕草をしながら歌いました。合奏は「外はすてき」です。大太鼓を担当した男子児童は、左手で力強く太鼓をたたいて、がんばっていました。司会の児童が、「初めてとは思えない、大きな発表でした」と言っていました。クラスがひとつになった素敵な合唱と演奏でした。

僕のねがい、わたしの夢をさわやかな風のにのせて届けます。あっ、南風が吹いてきた！そうやって会場を引きつけて歌を歌ったのは5年生

クラスです。♪どこまでも どこまでも 追いかけてみたいよね…楽しくて元気がわいてくる歌でした。合奏曲は「キリマンジャロ」、私の近くにいた児童は緊張した表情で木琴をたたいていましたが、うまくいきました。迫力満点の演奏でしたね。

## 素敵な児童画廊

小学校の教室脇の広い廊下には児童が描いた素敵な絵がいくつも並んでいました。

下の絵はそのひとつ、川探検の楽しさが見事に描かれています。子どもたちの表情がいいですね。野の花もトンボもチョウもいい。



上越地域各消防署における空間放射線量測定結果（測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。消防署によると、通常の範囲は1時間当たり0.016~0.16μSv（マイクロシーベルト）だということです。

	10月17日(水)	10月24日(水)
上越南消防署	0.040	0.040
上越北消防署	0.050	0.040
新井消防署	0.053	0.050
頸北消防署	0.046	0.043
頸南消防署	0.047	0.050
東頸消防署	0.050	0.050
高士分遣所	0.053	0.053
名立分遣所	0.040	0.050